

# 南あわじ市地域包括センターが開設

南あわじ市では、介護予防や高齢者の地域支援の中核を担う事業の推進を図るため、4月から市役所長寿福祉課内に地域包括支援センターを設置します。

高齢者が住み慣れた地域で、自立した生活を継続して過ごすことができるよう、介護予防サービスをはじめ、福祉・医療・権利擁護など、さまざまなサービスを総合的に包括的に支援します。

## センターの概要

▽業務の内容

- ① 地域の高齢者の状態を把握し、介護予防を推進
- 介護認定が要支援1または2と判定された人のサービス提供への支援
- 虚弱な高齢者が介護状態にならないためのサービス提供への支援
- 提供されたサービスが適正か評価します
- ② 高齢者や家族の総合的な相談・支援
- 介護保険制度だけでなく様々な制度や、社会資源を総合連携して、高齢者が地域のなかで生活しやすい環境整備を行います



- ③ 高齢者への虐待防止と権利の擁護
- リフォーム詐欺や振り込み詐欺、介護虐待などから高齢者の人権や財産を守ります
- ④ より良い介護のためケアマネジャーを支援
- 各事業所のケアマネジャーの相談に応じます

▽場所 緑庁舎健康福祉部長寿福祉課内  
住所 〒656-0192 広田広田1064番地  
▽連絡先 ☎44-3005、44-3035  
▽スタッフ 保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー

▽場所 緑庁舎健康福祉部長寿福祉課内  
住所 〒656-0192 広田広田1064番地  
▽連絡先 ☎44-3005、44-3035  
▽スタッフ 保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー

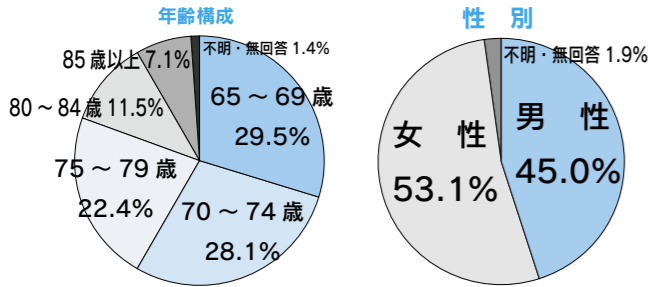
## 高齢者保健福祉計画 アンケート結果

高齢者の健康状態や介護が必要となった場合の暮らし方などについて昨年十月、市内全域でアンケート調査を行いました。集計結果の概要をお知らせします。

この結果は、南あわじ市民の高齢期の豊かで充実した生活を目指した「高齢者保健福祉計画」の策定にあたり、介護の予防対策を取り入れた地域づくり計画の基礎資料として活かされます。ご協力ありがとうございました。

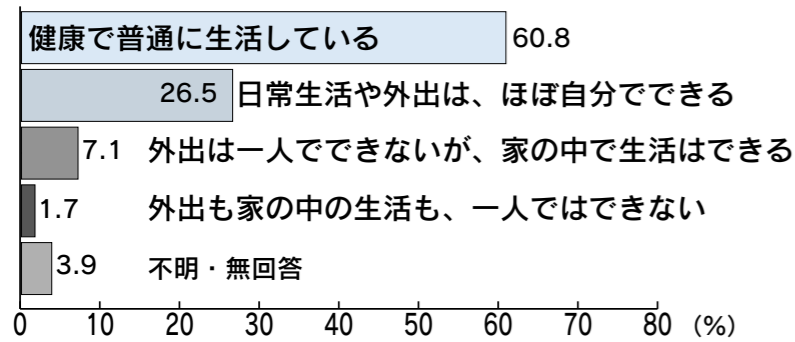
### 回答は1007人から

今回の調査は65歳以上の1000人を対象として行い、687人（回収率68.7%）から回答をいただきました。なお、同時期に調査した要支援と要介護の方の集計結果については、今回掲載しておりません。



性別では、「男性」が309人（45%）で「女性」が365人（53.1%）でした。

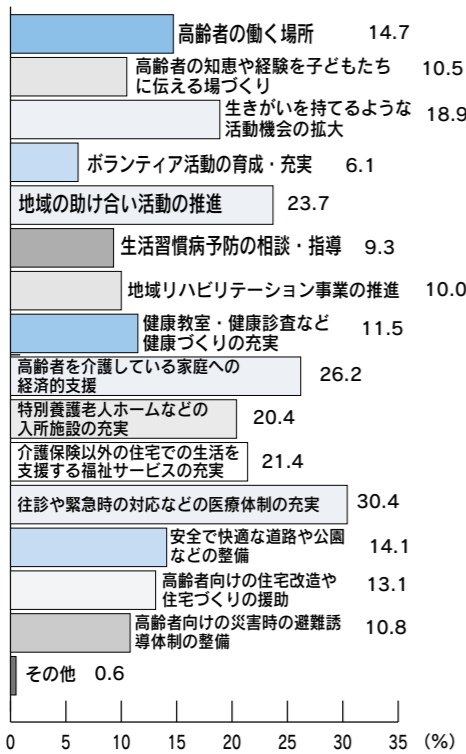
年齢階層別では、65歳～69歳までが203人で最も多く、次いで70歳～74歳までが193人、75歳～79歳までが154人の構成となっています。



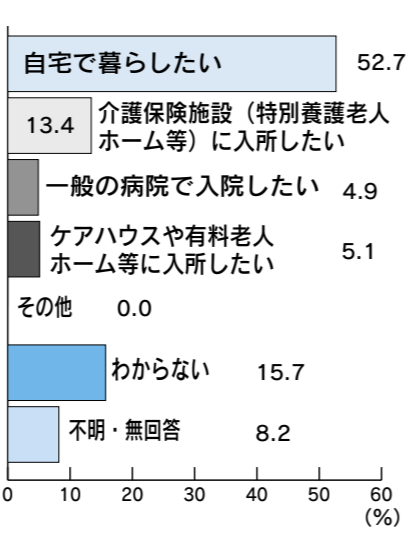
「健康で普通に生活」が60.8%と最も多く、次いで「日常生活や外出は、ほぼ自分でできる」が26.5%となりました。年齢別の集計では、「65歳～69歳」では「健康で普通に生活」では約8割ですが、「85歳以上」となると32.7%に低下しています。年齢が高くなるほどに「健康で普通に生活」の割合が減少している結果となりました。

### 問1 健康・日常生活は?

「往診や緊急時の対応などの医療体制の充実」が30.4%と最も多く、次いで「高齢者を介護している家庭への経済的支援」が26.2%、「地域の助け合い活動の推進」が23.7%となりました。

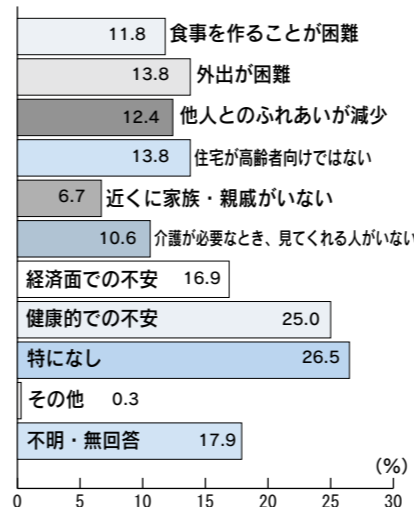


問5 これからの高齢化社会に対応していくため、南あわじ市は何に力を入れていくべきだと思いますか？（複数回答）



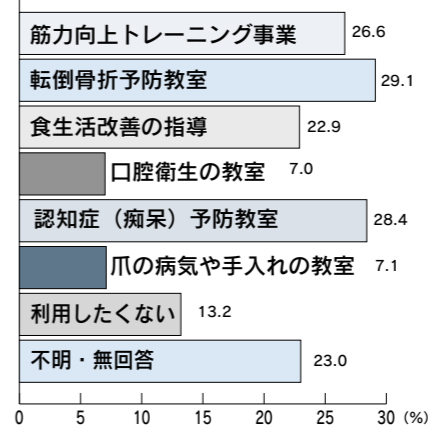
「自宅で暮らしたい」が52.7%と最も多く、次いで「わからない」が15.7%、「介護保険施設に入所したい」が13.4%となっています。

### 問4 将来あなたに介護が必要となった場合、どのようにして暮らしていきたいと考えますか？



「特になし」が26.5%と最も多く、次いで「健康面での不安」が25%、「経済面での不安」が16.9%となりました。

### 問3 日常生活での支障や不安なことは？（複数回答）



「転倒骨折予防教室」が29.1%と最も多く、次いで「認知症（痴呆）予防教室」が28.4%、「筋力向上トレーニング」が26.6%となりました。将来のことを考え予防事業へ関心をよせる方が増えてきている結果となりました。

### 問2 要介護状態となることを予防する事業が実施される場合、利用したい事業は？（複数回答）

介護保険が今年四月一日から制度改正により従来の介護給付事業に加え新たに「予防給付事業」と「地域支援事業」がスタートします。今回アンケートでは、改正される予防プログラムについて質問いたしました。